

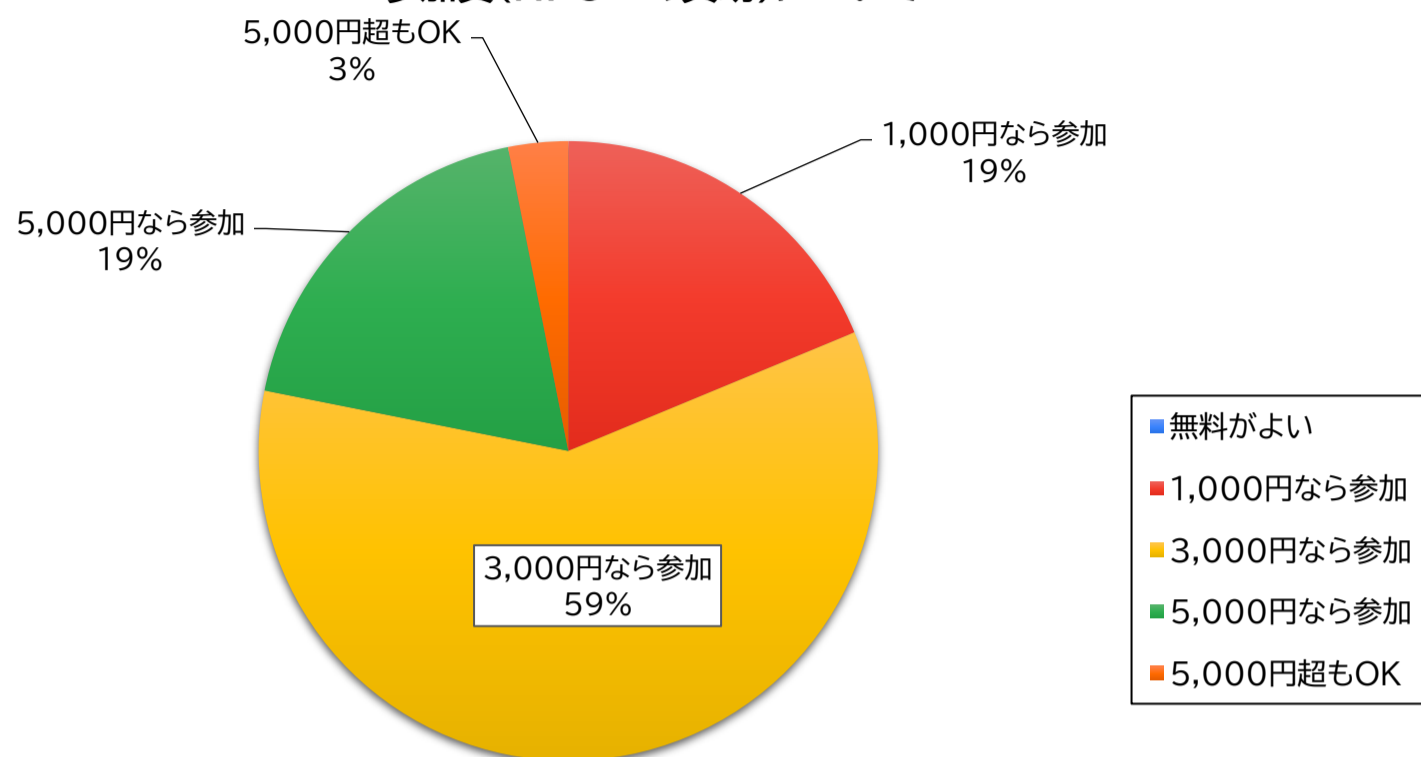
第4回テーマ:『健康食品のリスコミのあり方』

【開催日】2023年10月29日(日) 13:00~17:00

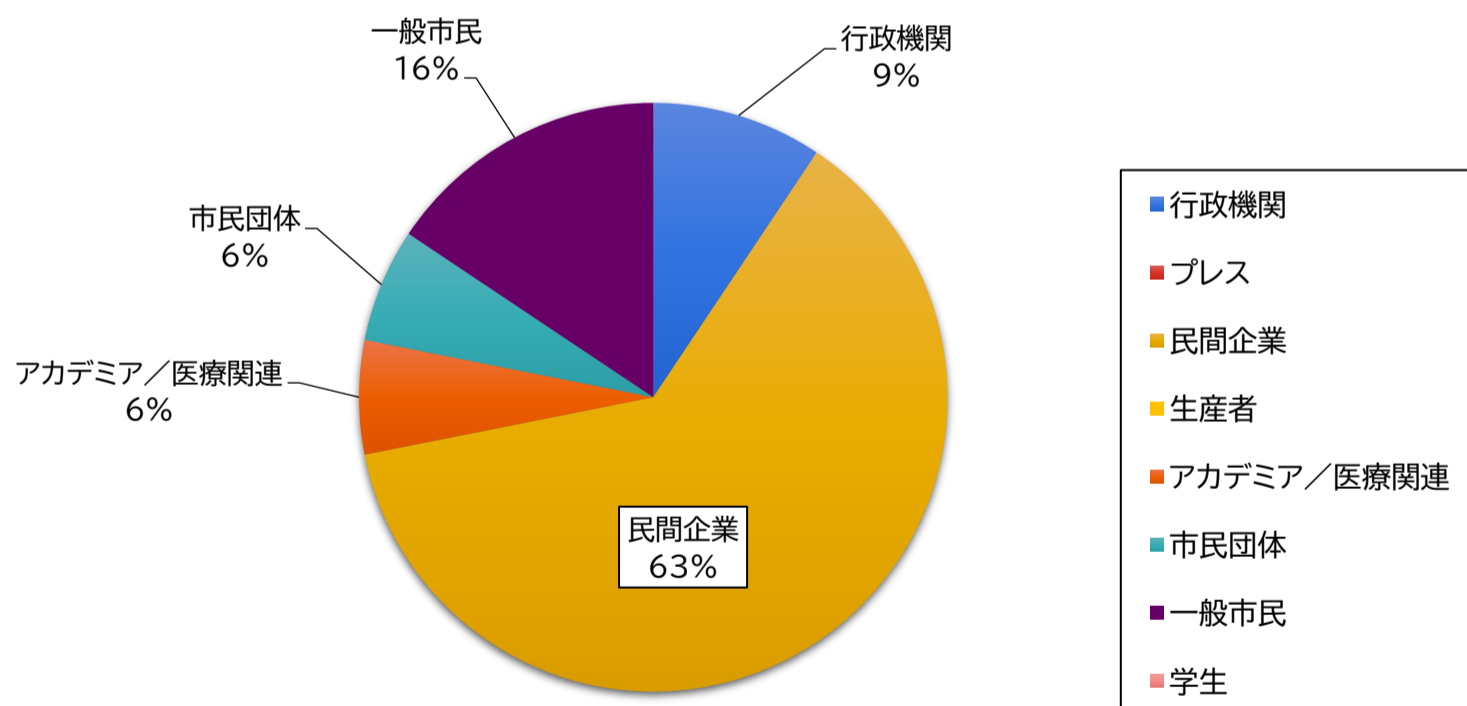
【開催場所】東京大学農学部フードサイエンス棟中島董一郎記念ホール+オンライン開催(Zoom)

アンケート回収数32枚(参加者:89名、演者4名を除いた回収率:38%)

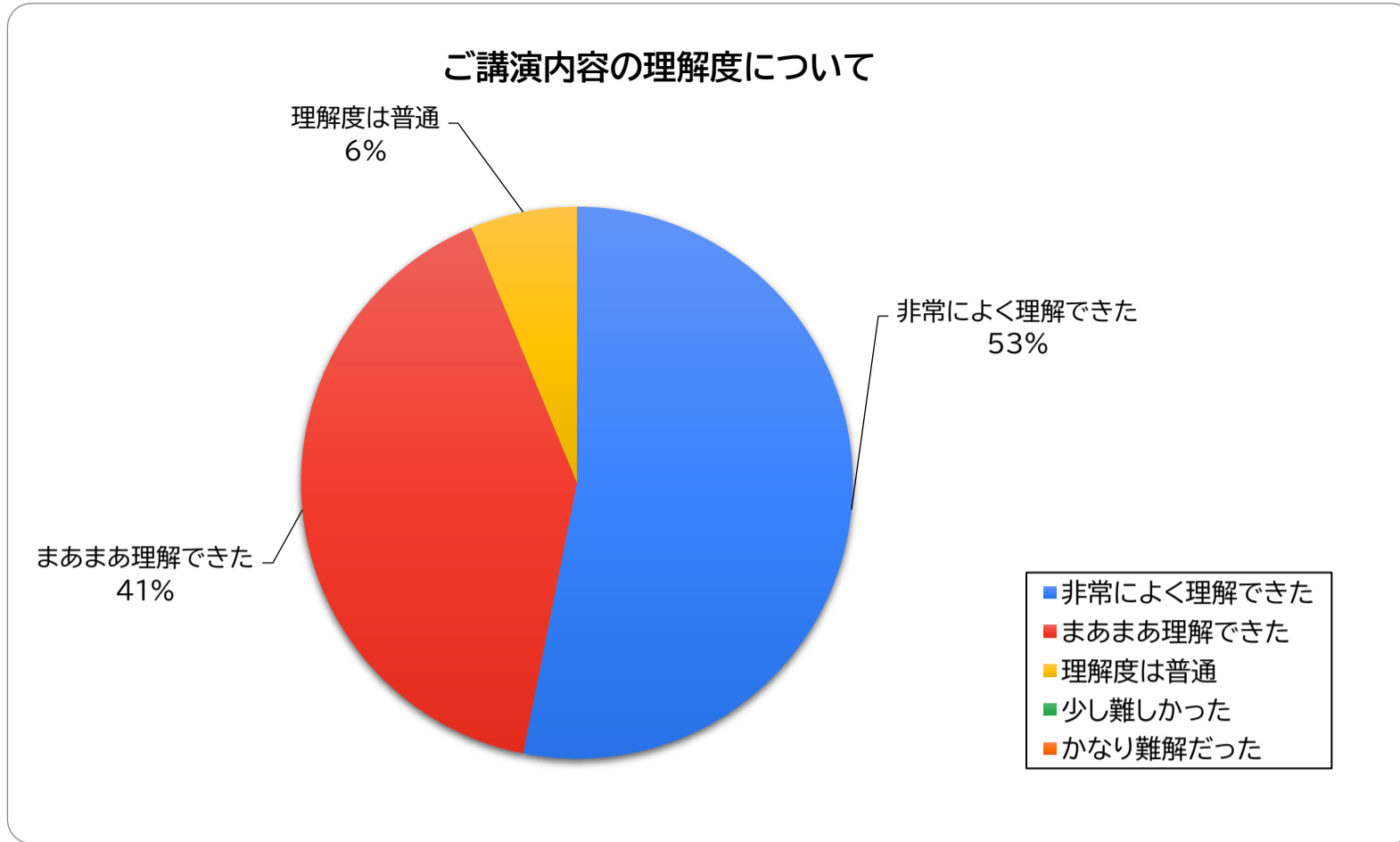
参加費(NPOへの賛助)について



参加者のご職業について

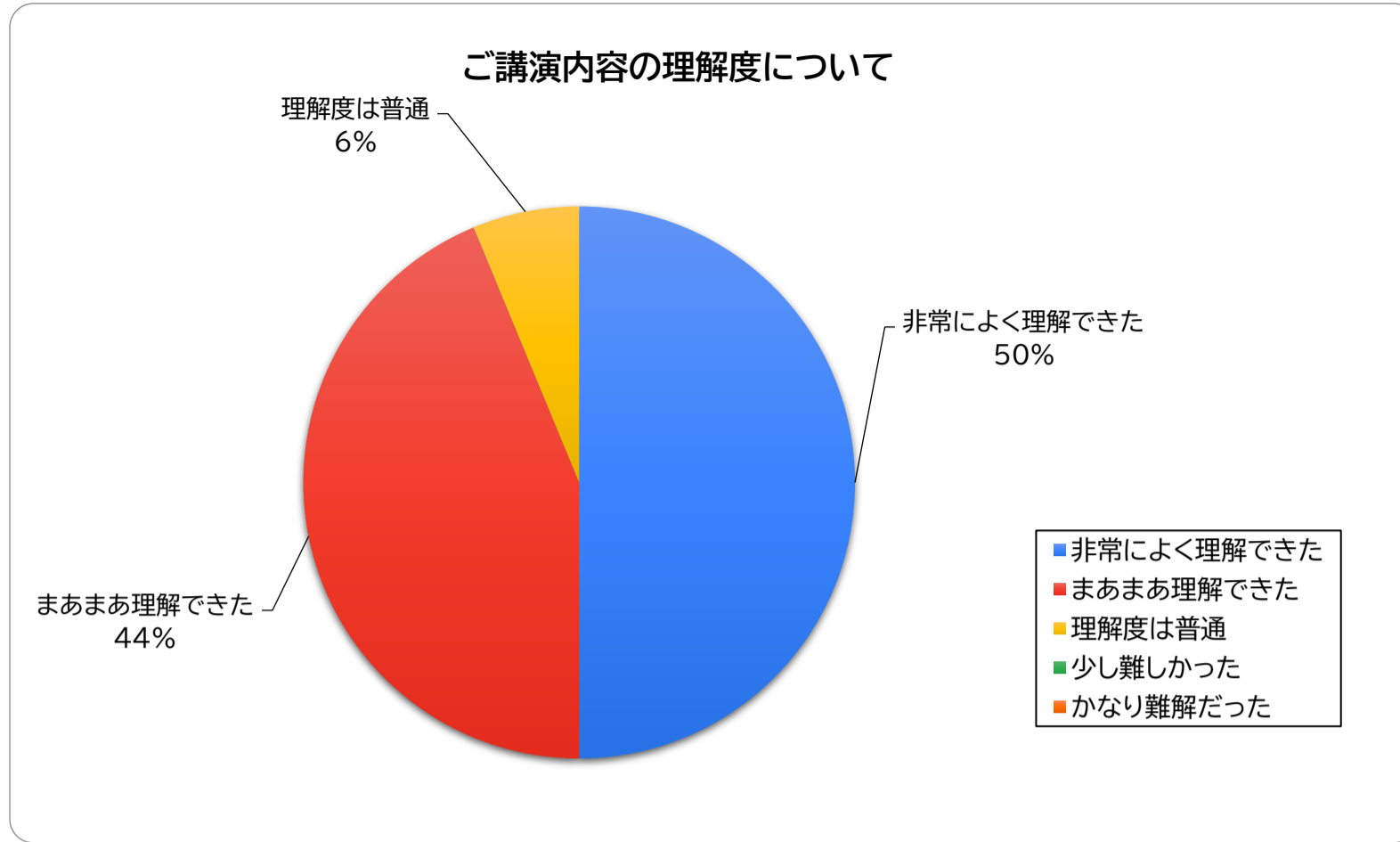


①宗林 さおり(SFSS理事・岐阜医療科学大学教授)『セルフケアに上手に使うためのヒントと注意点』



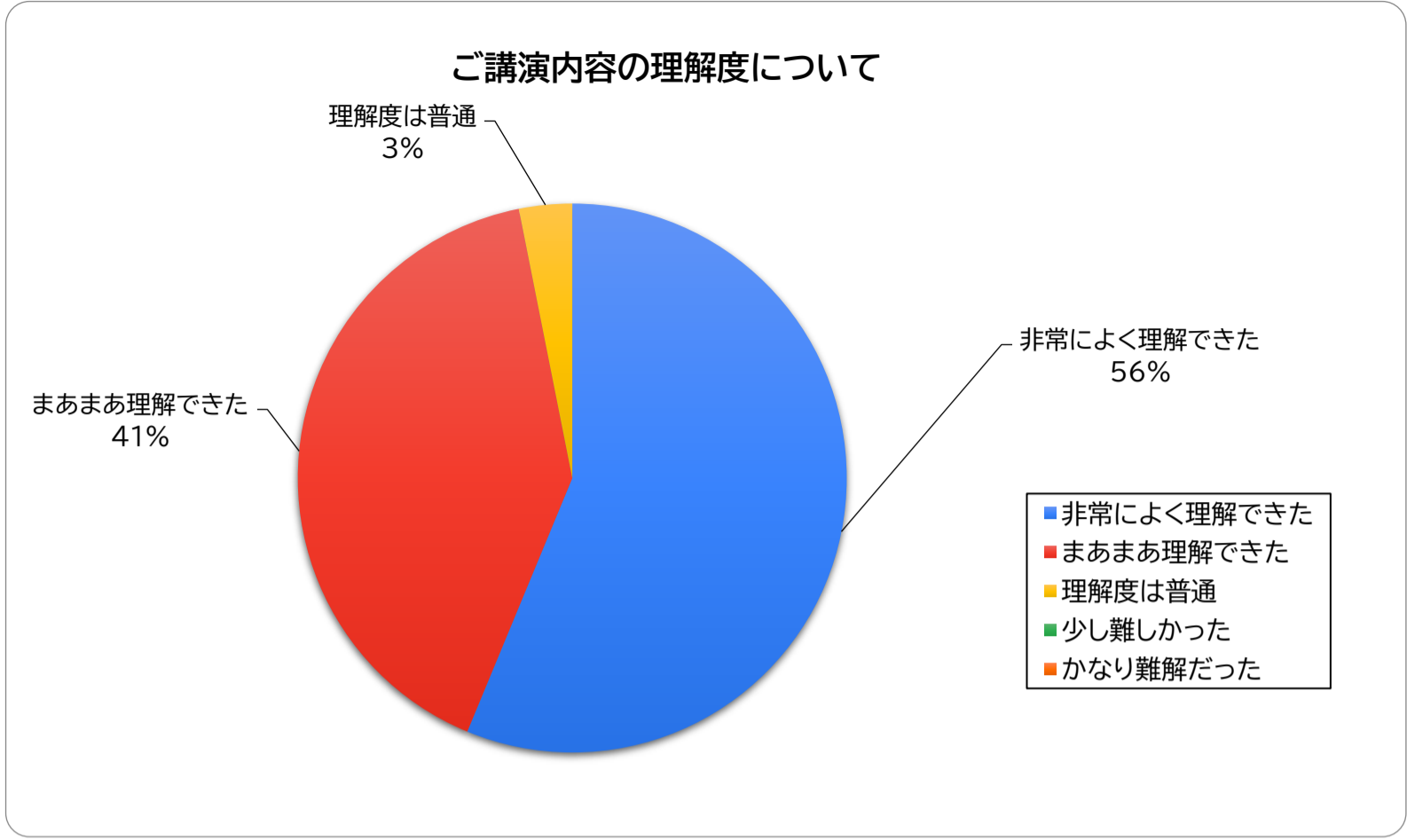
興味深く拝聴しました。
わかりやすかった。
すみません、遅刻して最後の10分ほどしか視聴出来ませんでした。
わかりやすいスライドで理解しやすかったです。食品に関しては大きくは食育からの教育が必要だと思います。食べるもの、運動などの消費活動と関連して健康は作られていくことを義務教育の中で理解させることが必要だと感じました。
やや焦点が絞られていない感じを受けました。
①健康食品のダイエット効果が自分のおなかをつまんで「こんなもの」という表現は、わかりやすく、愉快でした。 ②肥満症治療薬があるというのは、知りませんでした。BMIの数値にかかわらず、ちょっと腹に贅肉がついて、痩せたいというときに、気軽に使うことができると良いと思いました。
健康食品などの実際が端的に良く分かりました。消費者のバイアスと、それを利用するメーカーがあることで、相乗効果になりがちですね。しかし、基本的に少量食べて痩せる食品は毒ですね。医薬品並みに肝障害が多いこと、しかも、救済制度がないことはもっと知られた方がいいですね。情報発信は、もちろん、単発でなく、繰り返す必要があります。
行政全体で、機能性表示食品をどのようにしていこうとしているのか、改めて調整が必要だと感じました。
食品の安全性とは別に、健康食品についてはセルフケアが重要という気づきがあった。
食事で摂取しきれなかった推奨量を補うために、ビタミンやミネラル、EPA/DHAのサプリメントも併用しています。私は栄養士ではありませんが、管理栄養士養成施設の教員をしていますので、日本人の食事摂取基準の推奨量や目安等を参照して、服用する量を調節することができますが、一般の人にわかりやすく伝えるにはやはり難しいと感じています。
事例交え面白い話だったので、やや駆け足気味に感じました。
機能性食品について、浅い知識しかなく役立つ情報を頂けた
何も気にせずサプリを使用しているが、肝機能障害等言われてみればと思うことがありました。
正しく理解することが重要だと認識できたのとあわせて、知識、情報が少な人にとってはコストも含めてデメリットの方が多いと感じました。
関与成分と表示しようとする機能、部位の一覧表はとてもわかりやすかった 健康食品での被害については余り発信されてなく医薬品ではないからこそ 正しい発信が必要と感じた
大変解かり易い講演でした、引き込まれるような話術と説明で理解が進みました、民間人になると表現が滑らかになりますね、若い学生への健康食品の教育とリスクに期待します
薬(OTC)では、広く使われている商品であっても副作用が起こりうるということはよく知られているが、「健康食品」では、期待する効果に対して起こりうる副作用のリスクが消費者にあまり知られていない(もしくは食品なら安心という思い込みがある)のではないかと感じた。 健康食品がこれだけ市場を拡大しているところを見ると、消費者の健康に対する関心の高まりがあると考えられる。しかし、健康食品に効果を期待する人数に対して、健康の基本である食事や運動習慣そのものを改善しようと思う人は少ないのではないかと感じた。健康食品を摂取する人は少なくとも健康に関心があると思うので、「ずっと使用し続けないと効果がない」等のように否定するのではなく、健康食品を生活習慣改善のきっかけのひとつとして、栄養士などの身近な専門家が関わっていくことができればよいと感じた。

②大村 美香(朝日新聞暮らし報道部記者)『健康食品をめぐる報道』



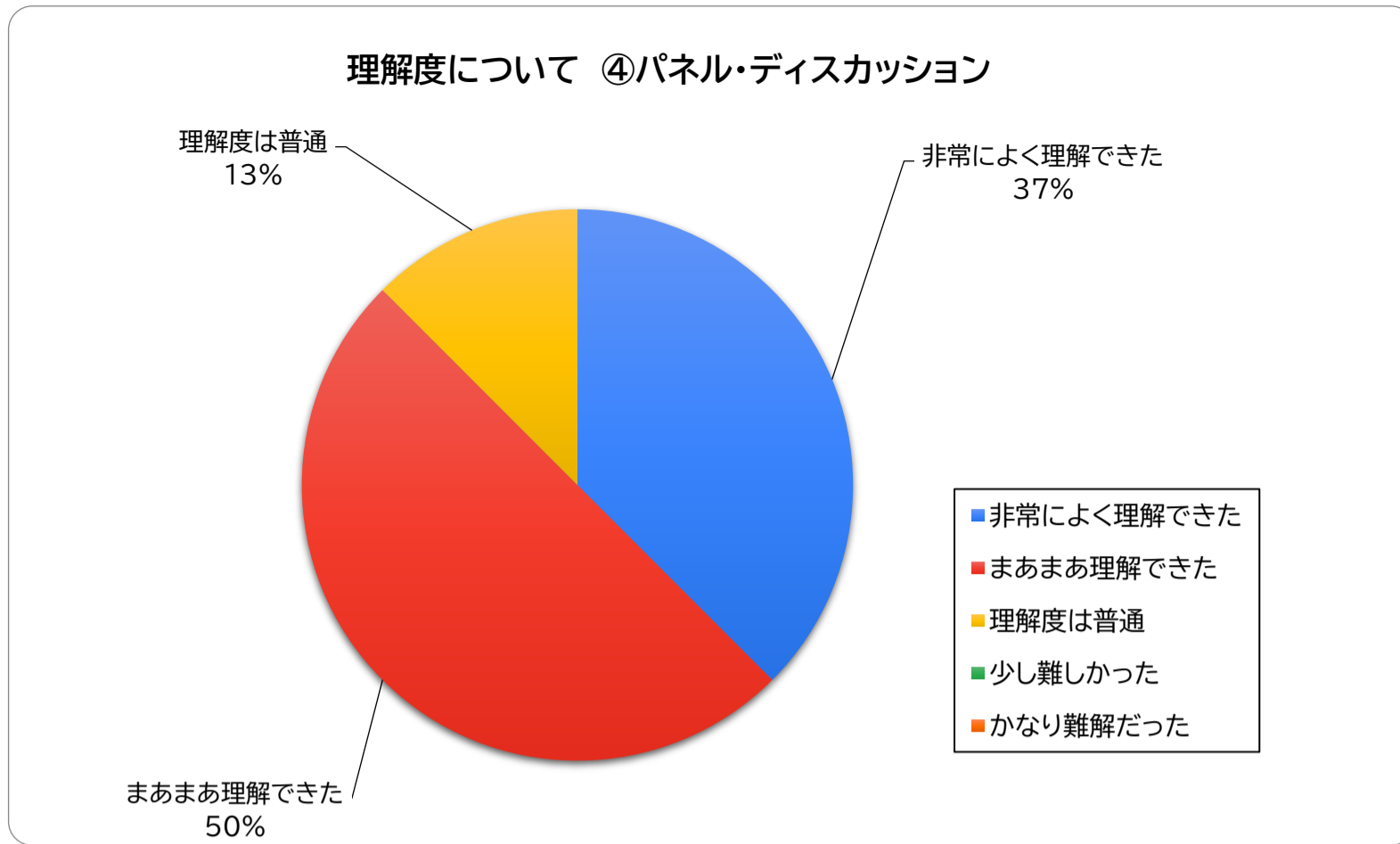
記者の考え方を聞き取ることができてありがとうございました。
これまでの経緯を改めて確認できてよかった。
実際に掲載された記事をスライドにアップされておられ理解しやすかったです。
新聞自体は購読者の平均年齢が高齢化し、若年世代はほぼ読まない過去のものになりつつあるところが悩ましいですね。マスメディアも時代とともに大変化しており、その中でどうコミュニケーションしていくか、ネットの新聞も読む人は少ないと思います。
マスメディアが記事にする基準などを次回でもお話ください。
・新聞記事の情報量や掲載箇所によるその取扱いの違いがあること、ベタ記事とか6段の記事とかの呼び方が興味深かった。
・トクホや機能性表示食品に係る記事により、今までの経緯を整理することができたことが大変有意義だった。
客観的な目線の講演で、中立な報道があることが分かりました。それでも、消費者のバイアスがまだまだ強いことも感じました。議論の始点として、そのバイアス自体を対象とした記事もあった方がいいと思います。これも、繰り返す必要があります。
機能性表示食品の効果について、他の健康影響要因との比較で示すことができていないのは大きな課題と感じました。
消費者への適切な説明のあるべき姿について気づきがあった。
管理栄養士国家試験対策で食品表示についても取り扱っていますが、テレビを見ていないので、トクホや機能性表示食品に具体的にそんなに多くの誇大広告、優良誤認表示等が問題になっていたことを初めて知ることができました。
健康食品を購入するとき、一応表示は見るが、話題性や口コミで商品を選んでいる自分にハッとしました。
企業に悪意があった場合、消費者の不利益の方が多いと感じました。一方で、企業の立場としては売上につなげるのが目的のため、溝が深いと思いました。
健康食品の問題報道が思いのほか多くなされていたことを確認したが、利用者にはよい情報しか伝わらないし利用者にとってマイナスな情報は避ける傾向があるので、健康食品についての正しい知識を持たせるための情報が重要と感じた
健康食品について過去、現在の実情とこれからの課題を時系列で勉強出来ました。
購買者の多くを占める高齢の消費者は制度や実態報道に関心を持っていません、殆んど広告媒体を通して認識して購入しています。事業者の過大かつ誘導広告に対しメディアのリテラシーが機能しているとは思われません。5大紙は報道部門と営業部門(広告部門)の連携と自主規制が必要です。
機能性表示食品において、企業が根拠を公開している点はよいと思うが、果たしてどれだけの消費者がそれを理解できるかという疑問には、同意した。
公開する情報に工夫が見られる(分かりやすく公開している)企業もあるとのことだったので、そのような企業が評価される仕組みがあれば少しずつ、消費者に優しい制度になっていくのではないかと。また、効果を連想させる表現や優良誤認させる表現を用いた広告は、専門家が見れば問題点に気付くことができるが、多くの消費者にとって魅力的に感じられるため、法律に反するかどうかにかかわらず、企業の誠実な姿勢が求められると感じた。
消費者も、保健機能食品の制度について全く知らないまま「何となく効果がありそう」と健康食品を選択するのではなく、制度について知った上で選択することが必要である。

③山崎 毅(SFSS理事長)『機能性表示食品のリスクとベネフィット』



有意義でした。ありがとうございました。
わかりやすかった
いつもわかりやすい説明でリスクとベネフィットについて理解が深まりました。 生活者がそこまで考えて摂食しないのをどう教育していくか 学校教育からやっていかないといけませんね。
リスクとベネフィットは対立概念なのか、リスクについてもう一度考えてみようと思いました。
・「リスクとベネフィット」の考え方、「どんぐりの背比べ」のイラスト、「食品中の健康リスク」やなど、一般の人にも分かりやすい事例が素敵です。 ・トクホは人試験があるので信ぴょう性が高そうですが、企業が実施する試験なので、それこそバイアスがかかった結果になっており、トクホだから良いわけではないのかなあと感じています。もちろん、良い人試験もあるので、個々の試験方法の良し悪しの評価があると分かりやすいと思いました(社員が被験者である場合は低評価とか)。
食品リスクの話題の中で、価値損失リスクの概念化が面白いと思いました。マイナーリスクの最大化の陰で、本来のベネフィットが軽視されるリスクも怖いところだと思います。こういったことも何度も発信することで、効果を期待したいです。
草の根活動的な取組みでは、このようなリスクコミュニケーションを多くの方に認知して頂くのは難しいと思う。ビジネスとしての利権や広告宣伝のスポンサーが多く存在する中で、マスメディアがどれだけ実態を客観的に示せるかが課題と感じました。 行政全体で、機能性表示食品をどうあるべきか、レビューが必要だと思っています。
リスクとベネフィットの両方があるという気づきがあった。
食品添加物についてはその安全性を徹底的に糾弾する一方で、いわゆる健康食品については安全性よりもベネフィットの信憑性の方が問題視されているのはダブルスタンダードのように感じました。やはり(食材含めて)天然由来であれば安全という固定観念の強固さをここでも感じました。
安心は主観的なもの、リスクがあったて信頼するとか信じるという人間の心との関係 再認識しました
安全・安心・リスクについて考え、再確認する内容でした。自身の業務と被る内容でしたので良かったです。
消費者が正しく理解して正しい判断をする必要があると感じました
健康食品の利用は自分の食生活をちょっと変えるきっかけ、意識づくりという考え方はとても共感した。ダイエットなどは「効果」をととても求めてしまうが即効果があるものは食品じゃないことに自身も気づかないといけないと反省した。
消費者は機能性食品のベネフィットを信じて使用しており、リスクを認識しておりません、 これぞリスクコミュニケーションが必要です。安全のリスクコミュニケーションよりもうまくできそうです、消費者はリスクに対して敏感です。大変参考になる講演でした
「食品」だからといって安全だと思い込むのではなく、どのような成分が含まれ、得られるメリットが自分にとって本当に必要かを考えて選択するべきである。しかし、企業が公開している機能性についての情報を読み解くことは、多くの消費者にとって難しいため、ASCONによるABC判定のように、その機能性がどの程度信頼できるのかが商品にも表示されているとよりよいのではないかと感じた。 健康食品にはベネフィットもあるが、「これさえ食べていれば大丈夫」という気持ちになって、健康食品を摂取する前よりも偏った食生活になるおそれもあり、まずは望ましい生活習慣についての知識を持つことが重要だと改めて感じた。

④ パネル・ディスカッション(進行:SFSS山崎)『健康食品のリスコミのあり方』



議論しにくい問いかけをされる質問者がおられたので、ある程度お題は規定し、質問者からのものは少なくするのがパネルディスカッションの主旨を達成できるのではと感じました。

時間をもう少しとった方がよかったですと思います。

海外の話題から、販売の現場に、説明者がいても良いかも知れません。ただし、販売者の都合と消費者のバイアスに負けない、客観的かつ独立の立場が必要ですね。この場でも、消費者と価値損失リスクの確認ができれば、と思います。

わかりやすい解説であった。

畑中氏も入り、多様な視点から話が展開したと感じました。

山崎先生の司会進行が毎回凄い、課題や伝えたい事の落とし込みが流石です

健康食品についてはプラス情報を伝えるのか、マイナス情報を伝えるのか、相手、使い方によって大きく異なり発信の難しさを感じた。あくまでも「食品」であることを忘れないことが重要と考えた

多くの消費者は口コミを信じるという話を聞き、身近な存在が知識を身につけて正しい情報を発信することの重要性を再認識した。消費者教育の難しさや、健康リテラシーの二極化について議論がされていたが、情報社会である現代において、興味を持っている人はどんどん知識を得る一方、関心のない人に対する情報の発信方法が乏しいと感じた。

行政等の公的機関と食品企業あるいは小売業界が連携し、正しい情報が手に入る環境づくりを行うことが社会全体の健康につながっていくと思う。そのために、情報を発信する立場である自身は、対象に合わせた「響く伝え方」を考え、表現方法や発信する媒体について検討していく必要があると感じた。

⑤ 今回のフォーラムについて、率直に思われたことを何でもお教えてください

健康診断でCがつくと、やたらと巷の宣伝に目を奪われ、著名ブランドや大手が手掛ける製品へ暗黙の信頼を寄せていることに気づきました。安全基準はクリアされている「だろう」、リスクは正当に開示されている「だろう」という信頼です。それだけ経験値も高く、社会責任があることを自覚して製品を世に送り出してもらいたい、と思いました。消費者にその選択を委ねるのは酷だと思えます。
質問でも申し上げましたが、我々が日々晒されている生活習慣病リスクを逃れる(低下させる)手段として特保や機能性表示食品が活用出来るという視点でアピールすることで、日常の食生活を健康的なものに変えていくことに繋がるのではないかと思います。
パネルディスカッションは事前討議課題を8割型は決めておいた方が良かったと思います。
あまり新しいお話がなかったような気がします。
それぞれの視点からの問題提起でとても良い内容でした。パネルディスカッションでも議論が深まったと思います。
福島の処理水の話で風評被害の防止には、「魚を食べる映像を報道・発信する」というようなソリューションをこのフォーラムで聞きました。機能性食品などは、早くから、この現象を利用しています。この現象も社会的側面から、研究対象だと思います。
草の根活動的な取り組みでは、このようなリスクコミュニケーションを多くの方に認知して頂くのは難しいと思う。ビジネスとしての利権や広告宣伝のスポンサーが多く存在する中で、マスメディアがどれだけ実態を客観的に示せるかが課題と感じました。
行政全体で、機能性表示食品をどうあるべきか、レビューが必要だと思います。
消費者からの意見や考えも聞いてみてもよいかなと思った。
健康食品についてはこれまであまり気にすることもなく、私自身も栄養補助のサプリメントを利用したりしてきましたが、健康食品による有害事例についても、食品に起因する健康被害として紹介するよう、次年度以降の食品衛生学のシラバスを検討してみようと思います。
今回のような、パネルディスカッションのみ入られるスピーカーがいるというのは、たまにやっても面白いと感じました。
機能性のある成分そのものに期待できる効果と機能性のある成分を含む食品に期待できる効果は異なると考えています。
機能性表示食品について、あまり信用していなかったが、中にはきちんとした商品もありそれを正しく見極めることができる知識は必要と感じました。
多くのことを勉強させていただきありがとうございました
いままでのフォーラムではリスクと言われているものについてを考える機会だったが、今回は使い方や立場により相手に伝えるべきリスクは異なり、受け止める人の視点での発信が重要であることを考える機会となった
演者の皆様が異口同音に健康食品の親類縁者へのリスコミに苦勞している実情に同感しました。私は製造管理と品質管理が万全と思われる大企業の製品を購入するよう身内に説明しますがそれでも伝わりません
機能性食品についてはあまりよい制度と思っていなかったが、よい面も理解できた。
主に機能性表示食品の制度やリスクとベネフィットについて、改めて学び、自分自身の理解内容を整理することができた。3つの講演、そしてパネルディスカッションの内容につながりが感じられ、理解しやすかった。

⑥ 今後、食の安全・安心・リスクに係る分野で、どのようなテーマのフォーラムを希望されますか？

いつも、重要なテーマで勉強会を開催くださりありがとうございます。
新規食品 EUのNobel foodと日本での取り扱い方について 食料安全保障の観点で肉をはじめとして代替タンパク質が世界的には注目され日本でもフードテックの一部として細胞培養肉や精密発酵による動物タンパクがで始めてます。このリスコミをお願いします
アプリと宅配の連動でかなり定量的に食事をデザインできる時代になりました。運動の評価もあります。この切り口での食や食生活の評価が気になります。健康なで生活をデザインし、より、ポジティブは発信者を見つけることで、消費者も食のリスクに目が行くのでは。
新開発食品
大村様が良い話をしてくださった直後に、朝日新聞の別記者が処理水に関連し、大変残念な記事を出されました。放射能に関するリスコミは、またやる必要があると思います。
食品の保存温度と予想される危険性
健康に対する一番のリスクである「栄養」について「欲」を満たすことも重要な要素なのでリスクと欲求とのバランス等考えてみたい
自然毒による食中毒について

⑦ 健康食品のリスコミのあり方について、どうあるべきでしょうか？ご意見をお書きください

リスコミは、子どもたちの教育の中で、家庭や学校、また双方向で図り、それらが習慣となり、子どもたちが社会へ送り出される前に行っておく必要があると思いました。
食品表示法、健康増進法、景表法などで大村先生の部分で取り上げられていた企業CM、ステマ等をもっと取り締まって行ければと思いました
機能性は寛容に、安全性には厳しくというのは、理念としては分かりますが、実際のところ、機能性と安全性はコインの裏表であり、これをどう実現していくのか、考える機会を提供いただければと思います。機能性がなく、安全性が低い食品はいくらでも想定できますが、起泡性が高い食品は、安全性にも注意を払う必要があると思います。
専門用語がわかりにくいというお声はありますが、一方で科学的な厳密さも必要だと感じます。消費者に対して情報を翻訳する役割が必要なのかと感じました。
健康食品や機能性表示食品は、適度な生活をしていない、また、運動しない(できない)人向けのニッチ市場であるとの位置づけが必要かと。でない、なんでもそれが効くような幻想、バイアス、ウソのステータス感や同調性がなくなると感じます。
健康食品のリスコミが一方通行にならないようにするためにどのようにすべきか。
特定の症状改善のような目的ではなく、それぞれ自分に必要な接種栄養素量を知った上で、食事による栄養バランスとの関係の中で、不足してしまう栄養素を補完する目的で利用するよう義務教育の中で教えていく必要があると思います。
宗林先生の話でも出ましたが、健食でも適切に摂らないと重篤な症状が出るため、運動なども組み合わせていくことが大切であることを、伝えていく必要があると考えます。
効果が明らかではない宣伝のチェックの仕方を考える
健康食品は人に勧められたり、口コミで購入するケースが多く、正しく理解するのは難しいのかなと感じました。ただ、安全性やリスクについては話していくべきだと思います。
表示制度の難しさもあるが、カプセルや錠剤という形で販売されているものが全て薬ではないことをまずは消費者に理解させることが必要と考える もっと食品であることを伝える費用があると考え
漢方薬販売店のような健康食品を専門的に説明し指導する販売店がリスコミをすれば効果的だと考えます。40年前アメリカカリフォルニア州の田舎町でサブリ専門ショップを覗いた事があります、漢方薬店のイメージでした。
企業は消費者に対し、「健康食品」のリスクとベネフィット、そして根拠についての情報を分かりやすく提示することが求められている。そのために、国は関連する制度やチェック体制を整える責任と、それらについて発信する責任がある。そして消費者は、商品名や印象で商品を選択するのではなく制度を理解した上で選択することや、正しい情報を周りに伝えることなどを通して、消費者自身も健康食品の安全性やよりよい制度が確立される環境づくりに関わっていると知ることが大切であると考え。

⑧ 今回のオンライン・フォーラムについて、ご要望や改善すべき点がありましたら、ご意見をお書きください

ハイブリッドでやってくださるので、思い立った時に視聴参加できることがとても有り難く思っております。
パネルディスカッションの部分で記載した通りです
マイクが入らないといったときがありましたが、概ねトラブルなく進んだと認識しています。

⑨ SFSS事務局へのご要望

毎回勉強になります。ありがとうございます。
いつも有意義なフォーラムの開催 ありがとうございます。
職業選択がどれも当てはまりません(企業が会員の任意団体なので、企業にチェックをしました)
行けたら良かったと思います。急な変更のご対応、ありがとうございました。
本年度のリスコミフォーラム、お疲れ様でした。まだ12月に最終講座があり準備等もありますが、来年度も引き続きよろしくお願い申し上げます。